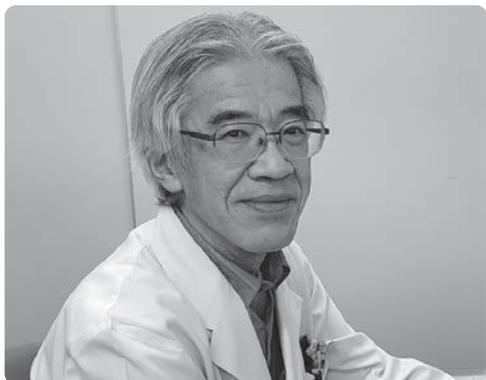




病院だより ◆113

美祿市立美東病院新院長 及び 副院長就任のごあいさつ



たけなか かずゆき

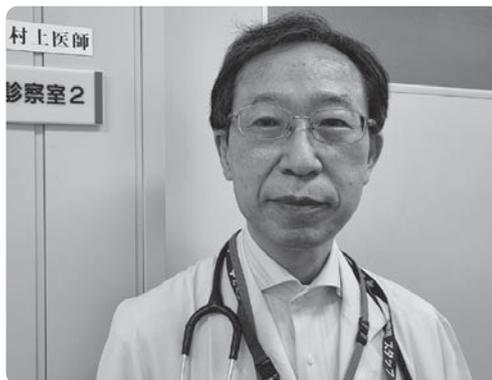
この度、美祿市立美東病院院長を拝命しました竹中 一行です。

私は宇部市出身で、昭和63年に山口大学医学部を卒業、同時に山口大学医学部第一内科に所属し、山口大学附属病院で研修を受けました。研修終了後は、平成6年から小倉記念病院、平成9年から光市立病院、平成12年から山口県立総合医療センターに勤務して主に消化器内科に従事してまいりました。平成24年4月に美祿市立美東病院に副院長として赴任し、今年で9年になります。

これまで当院は、10年以上の長きにわたり院長を務められた村上不二夫先生の御尽力により、地域に根差した医療を進めてまいりました。地域医療では、より幅広く、より柔軟に患者さんを診療するとともに、地域全体の医療や、福祉、介護等とのネットワークを生かすことで、より良い治療環境や予防環境を提供していくことが重要です。取り組むべき課題は数々ありますが、地域の公的な病院としての役割を維持しながら、時代に合った変革を進め、患者さんのニーズに合った柔軟かつきめの細かい対応ができる病院となるよう努めてまいります。

また現在、新型コロナウイルス感染症により、地域のみなさまも先行きが見通せない不安な日々を過ごされていることと存じます。感染状況に応じて適切な医療体制を提供しながら、従来からの医療サービスを低下させることのないよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

地域のみなさまから愛され、信頼される病院を目指し、安心・安全な医療をお届けしてまいりますので、今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。



むらかみ やすあき

令和3年4月1日付で副院長を拝命しました村上 泰昭と申します。

隣の長門市で生まれ育ち、東京で学生生活、教員生活を過ごしました。その後、医師を志し、山口大学医学部へ入学、卒業後、地域医療を目指して総合診療部に入りました。平成19年4月に当院へ赴任し、15年目になりました。

総合診療部と申しましても、私の場合は内科が中心です。一部の臓器だけでは無く、身体全体の状態や病気に気を配るようにしています。また、病気だけでなく、患者さんの人としての有り様にも注意するようにしています。食べ物の好き嫌い、性格、家庭での立場、仕事上の問題、いろいろな事を相談しながらアドバイスできたらと考えています。

ただ、こういうことは、医師1人でできることではなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学・作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、事務職員など多くの方々からのアドバイスに支えられています。また、開業医のみなさん、訪問看護やケアマネージャーからの情報も大切です。このような皆さんの知恵・力を治療に有効に結びつけられるようにしたいと考えています。

コロナ禍の中、孤立しがちな方も多いでしょう。いろいろな方々が手を取り合って支え合っていくことが求められています。助け合う地域社会を維持・発展できるよう、できるだけのことをしたいと考えています。

竹中新院長を補佐して、さらに地域に貢献できるようにしていくために努力していく所存です。よろしく願い申し上げます。